

「サムライ魂」

川崎市立はるひ野中学校1年

田中 照大



ぼくがまだ小学校三年生の時、源 義経と言う偉人に
であいました。テレビで知ってから、自分の中に流れる
「日本の血」を意識する様になりました。

四年生から剣道を習い始めて武道の精神を先生方にと
くさん教わり、加えて五年生からは、念願の馬上弓くら
べと言うスポーツやぶさめを始めました。

この競技は、人を相手に戦うわけではなく又、唯一動
物と一体になって行うスポーツでもあります。これは日
本にしかないスポーツだと思います。その昔は戦のため
の武士の武芸として訓練を行っていたのが流鏑馬です。

日本に残り少なくなってしまうた和種馬にまたがり、
本物の弓を持ち、狩衣を着て行なう大会は、ぼくの遠い

遠い祖先にまでさか上って、思いをはせると魂がふるえ
る様な気持ちです。

しかし、本番で落馬せずに走る馬上から両手を離して
矢を射るには、それまでの練習と馬への信頼がなければ、
とても怖くてできません。

小学校の時から馬たちの馬房そうじや、馬の手入れを
しました。くらの付け方まで習い毎回、ふんまみれにな
りながら、時にはかまれたり、ふまれたりしてアザだら
けにもなって馬の世話をしてきました。

きたなくて臭い物に触わる事なんて、それまでのぼく
の生活には、あり得ない事でした。でも今は、会いに行
くと、馬のそのにおいが手前から漂ってきても、

「あーまた会える！」と嬉しくてかけ出してしまいます。
寒い冬、馬はあたたかくて、はだか馬に乗ると、とて
も気持ち良いです。夏は、すぐに汗をかくので練習が終
わってから手入れをする時、ぼくを乗せて走ってくれた
事に本当に感謝します。

春は毛のぬけ変わりの時なので、ブラッシングの時に
ものすごく毛がぬけます。

手入れをしながら、生きている動物を扱う事の楽しさ
もむずかしさも知る事ができます。

自分の目の前で先輩や友達が落馬したり、骨折するの

を見て、怖さもあります。でも、馬と共にサムライ魂を燃え上がらせる、このスポーツに出会えた事に、ぼくは日本人の喜びをかみしめながら、ずっと続けて世界中の人に知ってもらいたいと思っています。

みんなに広まるようにがんばります。